

^{99m}Tc-Tetrofosmin心筋シンチグラフィと ¹²³I-BMIPPシンチグラフィによる心機能回復の予測： Acute Coronary Syndrome症例における検討

新井 芳行,* 大里 和雄,* 村上 達明,* 守内 郁夫*
 丹尾 裕,* 小門 宏全,* 下司 徹,* 田川 庄督*
 勝田 省嗣,* 水野 清雄*

〔目的〕

Acute Coronary Syndromeの再灌流療法の進歩に伴い、心筋回復能の予測が重要となっているが、未だその予測法は確立されていない。本研究の目的は、心筋血流製剤である^{99m}Tc-tetrofosminと心筋脂肪酸代謝製剤である¹²³I-BMIPPによる心機能回復の予測が可能か否かを検討した。

〔対象と方法〕

1999年8月より当院に来院し、急性期及び慢性期心臓カテーテル検査を施行し得たAcute Coronary Syndrome症例(男性17例、女性2例、平均年齢61±10歳)(表1)に対して、発症1週間以内に^{99m}Tc-tetrofosmin(Tc)を平均740MBq投与し、心拍同期SPECTを約1時間後に撮像し、その像からGermanoらによる新しい心機能解析ソフトであるAutoQUANT™により、心筋血流低下域extent(%) (Tc欠損)を算出した。また、発症3週間以内に¹²³I-BMIPP(BMIPP)を111MBq投与、撮像し、その像か

ら心筋脂肪酸代謝低下領域extent(%) (BMIPP欠損)を算出した。Tc欠損 - BMIPP欠損(%)をTc - BMIPP欠損差とし、急性期、慢性期の左室造影検査から求めた左室駆出率改善度との関係を検討した。

〔症例紹介〕

図1, 2, 3に、Tc欠損とBMIPP欠損の大きさの比較で3群に分け、代表例を提示した。

〔結果〕

Tc - BMIPP欠損差は、LVGEF改善度と有意の負の相関(LVGEF改善度 = 7.765 - 1.566 × (Tc - BMIPP欠損差) : r = -0.576, p < 0.01, n = 19)(図4)を示し、Tc - BMIPP欠損差が小であるほど慢性期の左室駆出率改善度が大きかった。

〔結語〕

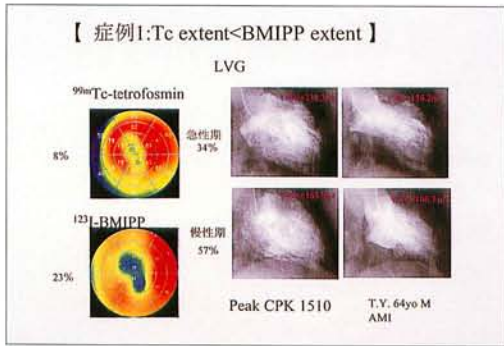
^{99m}Tc-tetrofosminと心筋脂肪酸代謝製剤である¹²³I-BMIPPの組み合わせにより、慢性期の心機能回復度の予測が可能と思われた。

症例リスト

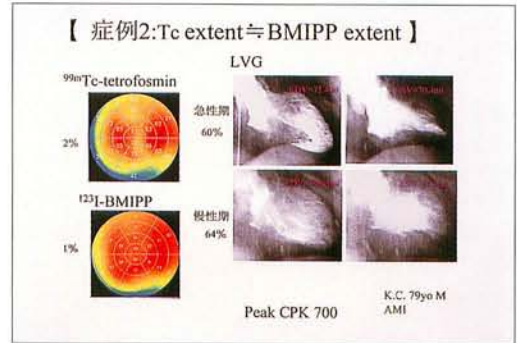
名前	性別	年齢	診断	責任部位	PeakCK	喫煙	糖尿病	高血圧
T.T.	男	48	AMI	11	2842	(+)	(-)	(-)
K.K.	男	45	AMI	6	1586	(+)	(-)	(+)
H.S.	男	53	AMI	3	5726	(+)	(-)	(-)
T.Y.	男	64	AMI	7	1510	(+)	(+)	(-)
R.U.	男	50	uAP	7	306	(+)	(+)	(-)
K.C.	男	79	AMI	13	1174	(+)	(+)	(-)
M.Y.	女	72	uAP	7	124	(-)	(-)	(+)
T.Y.	男	70	uAP	1	175	(+)	(-)	(+)
T.S.	男	75	AMI	13	425	(-)	(-)	(-)
T.H.	女	69	AMI	10	1670	(-)	(+)	(-)
T.O.	男	62	AMI	7	3890	(+)	(-)	(+)
S.M.	男	49	AMI	7	4412	(+)	(-)	(+)
T.K.	男	58	AMI	2	3758	(+)	(-)	(-)
T.N.	男	73	AMI	13	5497	(-)	(+)	(-)
K.Y.	男	57	AMI	7	6494	(-)	(-)	(-)
M.K.	男	65	AMI	13	2111	(+)	(-)	(-)
T.S.	男	71	AMI	10	714	(-)	(-)	(-)
T.K.	男	58	AMI	11	4696	(+)	(+)	(-)
M.S.	男	60	AMI	RCA	3487	(-)	(-)	(+)

▲表1

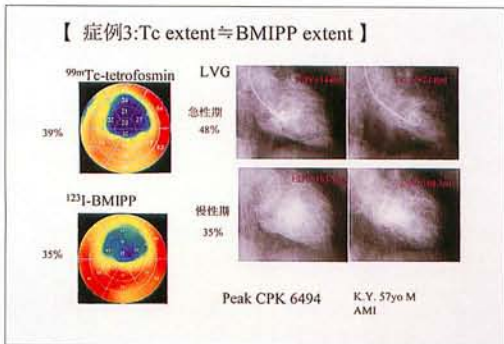
*福井循環器病院 循環器科



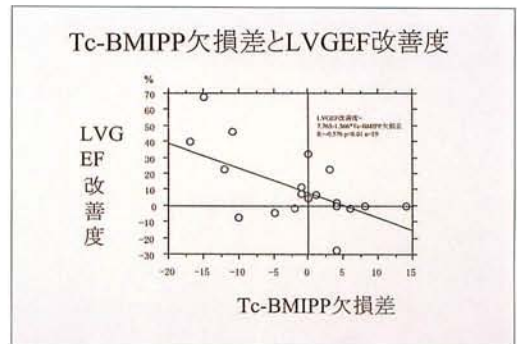
▲ 図1



▲ 図2



▲ 図3



▲ 図4